



富士・箱根・伊豆国立公園

伊東城ヶ崎 ピクニカルコース 自然研究路 ガイド

Jogasaki Picnical Course Nature Study Course Guide

ブルシャンブルーに光る海、切り立った絶壁、流れ出た溶岩の岬、波に浮かぶ伊豆七島、這松の林、植物の群落と、わたしたちが長い間探し求めていた自然が太古のままの姿でここに――。



ぼら納屋(Bora Naya(Seafood Restaurant))

ぼら納屋

江戸時代から約340年間も続いたぼら漁。ぼらが回遊する頃には村人が住み込んで漁の準備をしたとされるぼら納屋は、撤去寸前となりましたが、地元の人びとの手で復元され、現在では磯料理のお店として生まれ変わりました。

魚見(うおみ)小屋

漁業の盛んな富戸地区では、江戸時代から昭和30年代にかけて、村を挙げてぼら漁が行われていました。

魚見小屋は、ぼら漁期に4人1組で寝泊まりして、回遊してくるぼらの魚群を見つけるための見張り場、司令塔としての施設です。富戸地区に4か所ありましたが、現在ではこの1か所だけが残り、平成7年3月20日に市内で初めて県の有形民俗文化財に指定されました。

幕末の砲台跡

幕末のころ、この地を管理していた沼津藩水野氏が黒船の来襲に備えて四門の大砲を据えつけた砲台跡があります。大砲はその後下田港に運ばれたといわれ、いまはトベラ、ヒメユズリハの入り混った林になっています。

半四郎落しと門脇つり橋

昔、ここ城ヶ崎に近い富戸村に半四郎とおよしという仲の良い夫婦がおりました。半四郎がカゴにいっぱいのお漬(海藻のひとつ)を背負い帰る途中、海に落ちてしまいました。およしは悲しみここに涙を流す日が続き、これが、半四郎落しの由来です。この半四郎落しと門脇岬の間の海蝕洞に城ヶ崎の名所として長さ48m、高さ23mの海のつり橋があります。ここは千葉県にあるおせんころがしや新潟県にある親不知以上のスリルがあります。(昭和43年3月完成)

門脇岬と門脇崎灯台

城ヶ崎海岸第一の景勝の地、門脇岬は全国でも名高い磯釣りの名所です。

門脇崎灯台は、昭和35年3月に建設され、その後、平成7年3月に展望室付きの灯台に改築されました。

新灯台は、地上24.9mの高さですが、地上17mのところ収容人員30名の第一展望室が、地上4mのところ収容人員60名の第二展望台が設置され、晴れた日には、遠く伊豆七島や天城連山の峰々を望むことができます。

穴口

松林の続く溶岩礫の中に穴口があります。大室山の溶岩が流れ出した跡がトンネルになり、トンネルの天井が陥没した跡に橋をかけ、そこから下をのぞくと、はるか奥深い洞窟の底に海水が打ち寄せるのが見えます。この付近にはアキグミ(グミ科の落葉低木)が多く自生しています。



門脇つり橋(Kadowaki Suspension Bridge)

ヒメユズリハの群落

門脇岬の背後のごく狭い面積にヒメユズリハの群落があります。この群落は本州中部の代表的な純林で珍しいものです。ヒメユズリハの分布は本州の太平洋側で、福島県の南から沖縄までの海岸地方に自生しています。城ヶ崎海岸のものは70本余の群落をなし、平均周囲80m、高さ16m位あり、市の天然記念物に指定されています。

伊豆四季の花公園(伊豆海洋公園)

ピクニカルコースの終点は伊豆四季の花公園です。ピロー椰子やワシントン椰子を植えた海岸は南国ムードがいっぱいです。50mの海水プールや岩を利用した自然のプールがあり、夏は遊泳客で賑わいます。アジサイの原種を集めたあじさい苑やダイビング施設も完備しています。

蓮着寺

鎌倉幕府によって伊豆に流された日蓮上人は、現在の日蓮岬の沖にある祖岩に置きざりにされたと伝えられ、後に当地を治めていた小田原北条氏の今村若狭守が、ゆかりにちなんで祖師堂を建て、付近の土地七十町歩を寄進したのが蓮着寺のはじまりです。広大な寺の境内の美しい自然林の中には上人ゆかりの「袈裟かけの松」や「石食いのモチの木」などがあります。ここから八幡野港まで約6キロ、ゆっくり歩いて3時間の道のりです。

蓮着寺のヤマモモ

蓮着寺境内の美しい自然林の中には、上人ゆかりの「袈裟かけの松」や「石食いのモチの木」「ヤブツバキ」などのほかに、国指定の天然記念物であるヤマモモが自生しています。このヤマモモは雌木で、樹高15m根廻り7.2m枝張り東西22m南北17.7mで、根本から0.8mのところ三本に枝分かれし、目通りはそれぞれ4.2m、3.2m、2.5mでヤマモモの木としては県下最大級の巨木です。

篠海(ささみ)灯明台

蓮着寺住職田辺日浄が近海航行の船舶に救いの灯をと、大正5年頃日蓮岬先端に石油ランプの灯明台を造り、夜毎灯がともされ、法界万雷灯ともいわれましたが、今はその跡と大正11年に建てた常夜灯碑が残っています。

はしがかり

風や波の浸蝕により城ヶ崎海岸はさまざまな様相を呈していますが、脚下に自然が自ら設計施工したときえ思われる石橋があります。それが古くから「はしがかり」と呼び伝えられているものです。



蓮着寺(Renchakuji Temple)

対島の滝展望台

自然研究路の橋立つり橋の近くに対島の滝展望台があります。対島の滝は城ヶ崎海岸へ直接流れ落ちる美しい滝。水量が少ないと消えてしまうことから、幻の滝と呼ばれています。この滝を見た二人は必ず結ばれるという言い伝えもあるパワースポットです。(平成28年3月完成)

橋立

大室山(標高580m)の噴火により流出した溶岩が海中に流れこみ、急激に冷却されてできた柱状節理が最も良く観察できる場所として名が知られています。又、長い間海の波蝕により持ち去られた溶岩の跡はあかも名工が亀甲模様を彫刻をほどこしたような見事なものです。

大淀・小淀

眼下の岩礁にある大小の汐溜りは昔から大淀・小淀と呼ばれていました。自然が造りだした天与のプールとして周囲の人々に親しまれています。

階段を降りて、目前に広がる「さいつな」「こさいつな」の岬をながめると柱状節理の岩壁がよく観察できます。又、前方の「沖の島」は五角柱を組み合わせたような波蝕の美しい姿を見えています。

橋立つり橋

自然の造形の良い美しい橋立と対面のじょうせんが根には門脇つり橋と同じようにつり橋があります。門脇つり橋は眼下に波がくぐり過ぎて男性的な景観ですが、橋立つり橋は橋の上からの眺望が千変万化に富み、自然のきびしい様相が美しさとあまって、自然研究路一番の景観をみせています。橋の長さは60m、高さは18mです。(昭和46年5月完成)

水原秋桜子句碑

秋桜子自筆の句を刻み込んである真鶴産小松石の碑は橋立つり橋の橋立広場に建てられました。秋桜子は清新自由な句境を求めた新興俳句運動の一環として「馬酔木」を主宰、正岡子規の近代俳句樹立以後、俳壇の第一人者として活躍しました。

公衆トイレ

城ヶ崎海岸一帯にあるトイレはユニークな名前とデザインから日本トイレ協会が選奨する第1回グッドトイレ10に選ばれました。

- ①ぼら納屋前(潮騒の手水処)
- ②伊豆四季の花公園前(磯の香の家)
- ③蓮着寺境内(篠海の青椿堂)
- ④門脇岬(半四郎の落し処)
- ⑤富戸港(払スイセン'86)
- ⑥門脇岬(磯ぎ久の詩野箱)
- ⑦いがいが根(いがいがの静落庵)
- ⑧橋立駐車場トイレ